



奈良県農業研究開発センター ニュース

2017
6
vol.152

5～6月咲きの小ギク新品種‘春日Y1’と‘春日W1’

～ 低温期の茎伸長性に優れる早生夏ギク型品種の育成 ～

本県で小ギクの出荷が始まる5～6月に開花する新品種‘春日Y1’と‘春日W1’を育成しました(写真)。これらは開花期が早く、切り花長を確保しやすい特性を持っています。

1. 背景と目的

本県の小ギクは5～12月にかけて出荷され、全国第2位の生産量を誇ります。5～6月は、冬春産地である沖縄県との端境期にあたり産地間競争が厳しい時期です。しかし、この時期の品種は冬から春にかけての低温期に栽培するため、茎が伸長しにくく、切り花長を確保しにくいことが栽培上の問題となっています。そこで低温期の茎伸長性が良く、6月上旬までに咲く、早生性の小ギク品種を育成しました。

2. 研究成果の概要

両品種とも2011年春に、電照による冬春期生産に利用され、低温伸長性に優れる秋ギク型品種と早生の夏ギク型品種を交配し得られた実生から育成しました。

2012～13年に電照栽培と自然開花との比較試験によって、日長反応性を持たない早生夏ギクの生態特性を持つ系統を選抜した後、2013～16年にかけて、切り花特性および収量性により選抜しました。加えて2014～16年にはJAならけん西和花き部会の協力によって現

地試験を行い、市場性に優れることを確認し、2017年3月に品種登録を出願しました。

‘春日Y1’は、自然開花期が5月下旬の黄色(RHSチャート5B)品種です。既存の早生夏ギクである‘春日路’と比べて、花数が15輪とやや多く、茎の伸長性に優れるため切り花長を確保しやすい特性を持ちます(表)。

‘春日W1’は自然開花期が6月上旬の白色(RHSチャートNN155A)品種です。既存の早生夏ギクである‘川風’と比べて、花数が18輪とやや多く、草勢が強いため作りやすく、上位等級の切り花を得やすい特性を持ちます。

3. 実用化に向けた対応

両品種とも本年度から平群町と葛城市で営利栽培される予定で、奈良県産小ギクの競争力強化の一助になることを期待しています。当センターでは今後も、栽培温度への反応や病害虫抵抗性など、栽培に有利な特性をもつキク品種の育成に努めていきます。

表 ‘春日Y1’と‘春日W1’の開花日と切花品質

品種	試験年度	開花日(月/日)	切花長(cm)	切花重(g)
春日Y1	2015	5/26	86	48
	2016	5/23	83	45
春日路(対照)	2015	5/23	70	29
春日W1	2015	6/5	105	74
	2016	6/6	95	50
川風(対照)	2015	5/29	97	42



写真 ‘春日Y1’ (左) と ‘春日W1’ (右)

(花き栽培ユニット 中嶋 大貴)